



～あんず通信では感染症の流行状況を毎月お知らせしています～

## 【感染症だより】

### ～インフルエンザについて～

昨年の夏からずっと流行が続いているインフルエンザですが、東京都感染症情報センター発表によると1月上旬は一時やや減少したものの、1月下旬から再び増加に転じています。2月に入って福生市内ではB型が増加して来ており、学級閉鎖も出ています。東京都の情報では現在流行している株は、主流がA型のAH3亜型が約60%で、次いでAH1pdm09が約37%、B型は3%となっています。B型は重症化することはほとんどありません。とはいえ、5類の感染症に指定されており、発熱後5日間かつ解熱後2～3日(乳幼児は3日、学童以上は2日)の自宅療養が必要です。

### ～感染性胃腸炎について～

例年と同じく、冬の間は感染性胃腸炎が後を絶ちません。感染対策をきちんと行っているつもりでも、感染してしまうことがあります。吐き気や嘔吐、下痢、食欲不振などの症状は感染性胃腸炎の可能性が高いです。このような症状が認められた時はお家でお休みしましょう。吐き気がある時は無理に食べず、水分補給のみにしましょう。それでも吐いてしまう時は、ひとまずお腹をお休みさせるために1～2時間ほど絶飲食(飲まず食わず)してみましょう。吐き気止めのお薬があれば、それを使ってみるのもよいでしょう。吐き気が止まらない、飲ませても吐いてしまう、顔色が悪い、ぐったりしている、ボーっとしている、などの症状がみられた時は、脱水症状かもしれません。脱水症状は、体の中の水分が不足して循環する血液量が減り、血圧が低下することによって生じる症状です。点滴治療が必要な場合がありますので、医療機関を受診しましょう。

### ～新型コロナウイルスについて～

2月1日に発表された東京都保健医療局新型コロナウイルス感染症モニタリング分析によると、東京都で現在流行している株は約60%がJN.1、約30%がEG.5、約10%がBA.2.86となっています。先月同様、特に重症者が急増しているという報告は出ていません。世界で最も多く検出数が増加しているのがJN.1ですが、この変異は高い免疫回避能力を確保していると報告されています。

### ～新型コロナワクチン・副反応について～

厚労省の新型コロナワクチン副反応疑い報告によると、昨年10月までの発表で、死亡者2122人、重篤者8750人、副反応疑い総数36556件と報告されています。令和6年2月9日に発表された予防接種健康被害救済制度の累積受理件数は、10,169件、認定件数は6,244件でこれまでのすべての予防接種を合わせても届かない過去最高を更新しています。副反応は幅広い年齢に認められており、小児にも多数認められています。新型コロナワクチン後に認められている主な副反応の症状としては、心筋炎・心膜炎、失明や視力低下、関節痛、歩行困難、ひどい倦怠感、息切れ、月経不順・異常、頭痛、脱毛など、新型コロナウイルス罹患後症状と似たような症状です。詳しくは厚労省のホームページからどなたでもご覧になれます。

表：1月しみず小児科・内科クリニックで診断された流行性の感染症

	感染症	患者数
1	溶連菌感染症	178
2	胃腸炎(ノロウイルス含む)	123
3	インフルエンザA型	71
4	インフルエンザB型	28
5	新型コロナウイルス	26
6	咽頭腺ウイルス(プール熱)	21
7	突発性発疹	3
8	おたふくかぜ	2
8	伝染性膿痂疹(とびひ)	2
10	ヘルパンギーナ・手足口病	1
10	リンゴ病	1



～あんずからのお知らせ～

- ★**空き状況**はWebでしみず小児科・内科クリニックのホームページから確認出来ます。**ご予約は必ずお電話**でお願い致します。
- ★**キャンセル**をされる場合は、**留守番電話**で構いませんので**当日8:30までに必ずご連絡**をお願い致します。利用ご希望の方が1人でも多く入れるようご協力をお願い致します。
- ★**ご予約の際の注意事項**  
診察を受けた**病名**によって、なるべく同じ病気のお子様と同じお部屋になるよう部屋割りをしています。感染予防のためにインフルエンザや新型コロナウイルスの接触歴、流行状況等をお聞きしております。ご協力のほど宜しくお願い致します。

**予防接種ニュース**

令和6年4月より五種混合ワクチンの定期接種が始まります。五種混合というのは、現行の四種混合ワクチンにHibワクチンが加わったものです。これまで四種混合を接種している子は原則として四種混合で続けます。

